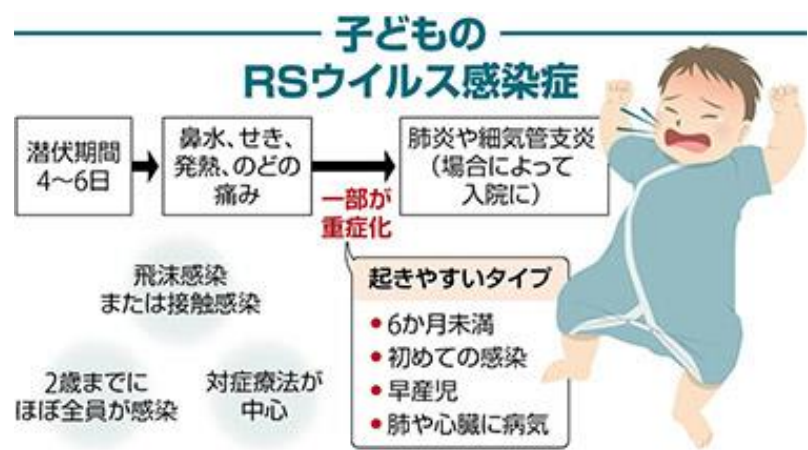


RS ウイルス感染症 重症化を防ぐ新しい抗体薬とは

自費だと1回45万円以上…公費助成始める自治体も

RS ウイルス感染症は、赤ちゃんに肺炎などを起こします。重症化のリスクがある早産児や肺に病気を持つ乳幼児向けに、新しい薬が昨年春、登場しました。従来の薬より効果が長く続き、重症化予防の選択肢が広がりました。（影本菜穂子）

対象絞る保険適用



重症化を防ぐ方法

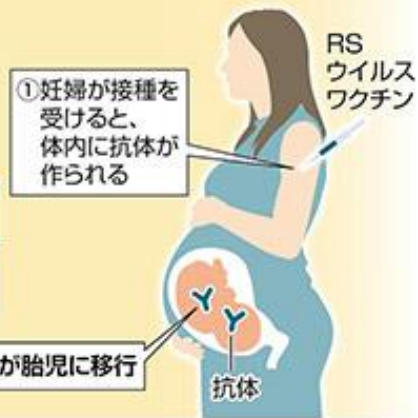
抗体を直接注射する薬

製品名 (発売時期)	主な対象	主な 使用時期	負担
シナジス (2002年8月)	重症化の リスクがある 0〜1歳児	流行期に 毎月1回	保険適用
ベイフォータス (24年5月)	重症化の リスクがある 0〜1歳児	流行期に 1回	保険適用
	0歳児		自費(一部の 自治体で 補助あり)

赤ちゃん

母体から胎児に
抗体が移る働きを
利用したワクチン

製品名 (発売時期)	対象	使用 時期	負担
アプリスボ (24年5月)	妊婦	妊娠24 〜36週	自費



R Sウイルスは2歳までにほぼすべての子どもが感染し、鼻水やせき、発熱、喉の痛みといった風邪症状が出ます。生後6か月未満や、初めての感染の子どもは肺炎や細気管支炎になるなど重症化しやすいです。早産や、肺や心臓に病気を抱えている子どももリスクが高いです。

重症化すると、ゼイゼイと苦しそうに呼吸したり、ミルクが飲めなくなったりして入院が必要になります。病院では酸素投与や人工呼吸器の使用などの対症療法が行われます。

福岡赤十字病院の小児科部長、古野憲司さんは「**重症化した子どもは、ぜんそくなどの長期的な症状に苦しむ心配があります**」と話しています。

重症化を抑えるため、2002年から抗体薬「**シナジス**」が使われてきました。ウイルスに対する抗体を直接体内へ送り込み、ウイルスの増殖を防ぎます。流行期に月1回注射しますが、**公的医療保険の適用となるのは早産児や、肺や心臓の病気、ダウン症などを抱える0～1歳児**です。

24年5月には別の抗体薬「**バイフォータス**」が登場しました。**シナジスと同様に、早産児などの重症化リスクがある0～1歳児が保険適用の対象**です。流行期に1回注射し、5か月以上効果が続くことが期待されています。

福岡市の三浦絆ちゃん（生後11か月）はダウン症があり、生後1か月から月1回、シナジスの注射を受けましたが、25年2月にバイフォータスを使いました。母親の由美子さんは「息子が痛がる注射の回数が減り、良かった」と話します。

ただ、**持病がない大半の子どもはどちらの薬も保険適用外**となります。**バイフォータスは、全ての0歳児の重症化予防で承認されていますが、自費での使用となり1回あたり45万円以上かかります**。

公費助成促す動き

日本小児科学会は昨年11月、乳児にバイフォータスが使いやすくなるように、費用の助成を求める要望書を国に提出しました。同学会副会長で東京都立小児総合医療センター院長の山岸敬幸さんは「米国やスペインなど海外では全ての乳児に投与できる仕組みが広がっています。重症化や入院を減らすことは子どもや家族の負担軽減につながります」と訴えます。

高知県須崎市では25年度から0歳児を対象に公費助成を始める予定です。

妊娠24～36週の妊婦に接種し、生まれてくる赤ちゃんの重症化を防ぐワクチン「**アブリスボ**」も昨年5月に登場しました。公的な接種ではなく、**費用は3万円かかります**。**接種を受けた妊婦の体内でウイルスに対する抗体が作られ、胎児に移行し、生後の重症化を抑えることができます**。

感染予防



おもちゃなどの
アルコール消毒



流水とせっけんによる手洗いや、
アルコール消毒

作図 デザイン部 池田亮

R Sウイルスは、接触感染や、せきやくしゃみによる飛沫感染で広がります。感染予防にはおもちゃのアルコール消毒やマスクの着用などが大切です。